

注3

設置年度

令和

3年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

ヤマザキ動物看護大学 動物看護学部 動物人間関係学科

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人ヤマザキ学園
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

ジムキョクチョウ オオサワ タダヒロ
事務局長 大澤 忠廣

電話番号

042-653-0901

（夜間）

042-653-0901

e-mail

kyoumuka@yamazaki.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

動物看護学部

＜動物人間関係学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ヤマザキ学園

(2) 大学名

ヤマザキ動物看護大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒192-0364
東京都八王子市南大沢4-7-2

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成6年6月)		
学長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成25年4月)		
学部長	(ウチダ アキヒコ) 内田 明彦 (令和2年4月)		
学科長等	(フルカワ ツトム) 古川 力 (令和3年4月)	(ウエダ フキコ) 植田 富貴子 (令和3年4月)	学科長予定者の自己都合による退職により、令和3年4月から新学科長に変更(3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
動物看護学部 動物人間関係学科 学士（動物看護学）	農学関係	4年	80人	—人	320人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	1.12 倍	—	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	184 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	178 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	105 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	90 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.12				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	90 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)					- [-] (-)

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	90 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{90} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ペットビジネス起業論	4後	2								1
	消費者行動分析学	4後	2								1
	情報危機管理論	4前	2		1						
	動物とアート	1前	1								1
	動物文化人類学	3前	2		1						
	水族動物学	3後	2								1
	動物園・水族館論	3前	2								1
	有害動物学	3後	2								1
	サイエンスイングリッシュ	3前	2		1						
	小計(49科目)	-	41	52	0	9	1	2	0	11	39
総合科目	アカデミックスキルズ	3前	2		1						
	統計学	2後	2		1						
	動物看護学総合演習	4前	1								1
	卒業論文	4通	4		9	1	2				
	インターンシップ	3・4通	2				1				1
	研修・ボランティア活動	1・2・3・4通	1		1	1					1
	動物実習短期留学	1・2・3・4通	4								1
	アセスンリアワーⅠ	1通	1		2						1
	アセスンリアワーⅡ	4通	1				1				1
	小計(9科目)	-	4	14	0	9	1	2	0	0	5
合計(91科目)	-	73	98	0	10	1	2	0	11	53	

卒業要件及び履修方法

大学の動物人間関係学系としての卒業要件は、本学に4年以上在学し、学期に定める授業科目の中から124単位以上修得すること。124単位の内訳は以下のとおりである。
「教養教育科目」必修12単位、選択18単位を修得し、「教養教育科目」から合計30単位以上修得すること。
「専門教育科目」全体から「専門基礎科目」で必修16単位、「専門科目」で必修41単位、「総合科目」で必修4単位、小計61単位を修得すること。加えて、「専門教育科目」全体から選択小計33単位を修得の上、「専門教育科目」から合計94単位以上を修得し、総計124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：44単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ペットビジネス起業論	4後	2								1
	消費者行動分析学	4後	2								1
	情報危機管理論	4前	2		1						
	動物とアート	1前	1								1
	動物文化人類学	3前	2		1						
	水族動物学	3後	2								1
	動物園・水族館論	3前	2								1
	有害動物学	3後	2								1
	サイエンスイングリッシュ	3前	2		1						
	小計(49科目)	-	41	52	0	7	1	2	0	11	42
総合科目	アカデミックスキルズ	3前	2		1						
	統計学	2後	2		1						
	動物看護学総合演習	4後	1								1
	卒業論文	4通	4		8	1	2				
	インターンシップ	3・4通	2				1				2
	研修・ボランティア活動	1・2・3・4通	1		1	1					1
	動物実習短期留学	1・2・3・4通	4								1
	アセスンリアワーⅠ	1通	1		2						1
	アセスンリアワーⅡ	4通	1				1				1
	小計(9科目)	-	4	14	0	8	1	2	0	0	5
合計(91科目)	-	73	98	0	9	1	2	0	11	61	

卒業要件及び履修方法

大学の動物人間関係学系としての卒業要件は、本学に4年以上在学し、学期に定める授業科目の中から124単位以上修得すること。124単位の内訳は以下のとおりである。
「教養教育科目」必修12単位、選択18単位を修得し、「教養教育科目」から合計30単位以上修得すること。
「専門教育科目」全体から「専門基礎科目」で必修16単位、「専門科目」で必修41単位、「総合科目」で必修4単位、小計61単位を修得すること。加えて、「専門教育科目」全体から選択小計33単位を修得の上、「専門教育科目」から合計94単位以上を修得し、総計124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：44単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- I 兼任・兼任講師の就任辞退により、以下のとおり変更。
①「キャリアマネジメント」の教員配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
②「動物繁殖学」の教員配置を「兼任1・兼任2」から「兼任2」に変更。
③「動物病理学」の教員配置を「兼任1・兼任1」から「兼任1・兼任2」に変更。
④「動物愛護・福祉と関連法規」の教員配置を「兼任1・兼任1」から「兼任1」に変更。
II 動物看護学部全体の教育を体系的に見直し、授業の教育の質を高めるため、以下のとおり変更。
①「動物看護学概論」の教員配置を「兼任3」から「兼任5」に変更。
②「動物臨床看護学(基礎)」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
③「動物臨床看護学(基礎)実習」の教員配置を「兼任3」から「兼任5」に変更。
④「動物臨床看護学(内科)実習」の教員配置を「兼任3・兼任1」から「兼任4・兼任1」に変更。
⑤「コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習」の教員配置を「兼任2」から「兼任4」に変更。
⑥「コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習」の教員配置を「兼任1・兼任1」から「兼任3・兼任1」に変更。
⑦「インターンシップ」の教員配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
III 動物看護学部全体の教育を体系的に見直したため、以下のとおり変更。
①「動物生態学」を「2後」から「2前」に変更。
②「動物行動学」を「2前」から「2後」に変更。
③「動物病理学」を「2後」から「2前」に変更。
④「公衆衛生学」を「2前」から「2後」に変更。
⑤「動物飼育管理実習」を「1通」から「2通」に変更。
⑥「動物看護学総合演習」を「4前」から「4後」に変更。
IV 専任教員の就任辞退により、以下のとおり変更。
①「伴侶動物資源・育種学」を「教授1」から「兼任1」に変更。
②「産業動物学」を「教授1」から「兼任1」に変更。
③「野生動物学」を「教授1」から「兼任1」に変更。
④「卒業論文」を「教授9」から「教授8」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

必修	設置時の計画			変更状況				備考
	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
42	49	0	91	42	49	0	91	
	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	動物飼育管理実習	21通		専門	必修	本科目は動物看護学部動物人間関係学科と動物看護学部動物看護学科の両学科において開講される科目であり、動物看護学部全体のカリキュラムを体系的教育を踏まえて再検討した結果、2年次開講とすることとなったため。 学生には、4月当初のオリエンテーションにて、シラバスを用いて、2年次開講になる旨のアナウンスを行った。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 動物飼育管理実習：
本科目は、動物看護学部動物人間関係学科と動物看護学部動物看護学科の両学科で開講される科目となり、当初は1年次に開講する予定であったが、動物看護学部全体のカリキュラムを体系的教育を踏まえて再検討した結果、2年次開講とすることとした。
学生は体系的に学修できるため、影響はないと考えている。
学生には、4月当初のオリエンテーションにて、シラバスを用いて、2年次開講になる旨のアナウンスを行った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{1}{91} = \boxed{1.09} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	0㎡	17,664.16㎡	0㎡	17,664.16㎡				
	運動場用地	0㎡	1,402.75㎡	0㎡	1,402.75㎡				
	小 計	0㎡	19,066.91㎡	0㎡	19,066.91㎡				
	そ の 他	0㎡	1,088.21㎡	0㎡	1,088.21㎡				
	合 計	0㎡	20,155.12㎡	0㎡	20,155.12㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	0㎡ (0 ㎡)	0,638.24 11,247.64㎡ 10,638.24 (11,247.64 ㎡)	126.39 75.39㎡ 126.39 (75.39 ㎡)	0,764.63 11,323.03㎡ 10,764.63 (11,323.03 ㎡)	大学全体 大学院専用面積の変更に 伴い、「共用する他の学 校等の専用」面積を変更 した。(3) 「共用」面積は、上記に 加え、体育館を含んでい たため、体育館を除いた 面積とした。(3)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	14室	8室	13室	2室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			大学全体			
	動物看護学部動物人間関係学科		28 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体	
		動物看護学部 動物人間関係学 科	26,902 [3,335] (26,474 [3,256])	61 [21] (58 [18])	16 [14] (16 [14])	644 (644)	10,106 (10,106)		238 (238)
	計	26,902 [3,335] (26,474 [3,256])	61 [21] (58 [18])	16 [14] (16 [14])	644 (644)	10,106 (10,106)	238 (238)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	292.10㎡		40		29,028				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
	558.40 532.00㎡		—						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体	
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	0千円	0千円		0千円
	共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円		
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,600千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金・雑収入・資産運用収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	ヤマザキ動物看護大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
動物看護学部	年	人	年次人	人	学士 (動物看護学)	倍	倍	年度	年度	年度	
動物看護学科	4	180	-	720	学士 (動物看護学)	1.16	1.21	-	平成22	-	
大学全体	-	180	-	720	-	1.16	1.21	-	-	-	定員変更(△80)
大学の名称	ヤマザキ動物看護大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
動物看護学研究科	年	人	年次人	人	修士 (動物看護学)	倍	倍	年度	年度	年度	
動物看護学専攻	2	5	-	5	修士 (動物看護学)	1.00	1.00	-	令和3	-	
大学院全体	-	5	-	5	-	1.00	1.00	-	-	-	
大学の名称	ヤマザキ動物看護専門職短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
動物トータルケア学科	年	人	年次人	人	動物看護 短期大学士 (専門職)	倍	倍	年度	年度	年度	
大学全体	3	80	-	240	-	1.07	1.28	-	平成31	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<動物看護学部 動物人間関係学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山崎 薫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		アニマルアシステッドセラピー論※ イヌ・ネコの特性論※
専	教授 (学科長)	古川 カ (67) <令和3年4月> 農学博士
		動物人間関係学概論※ 動物遺伝学 伴侶動物資源・育種学 産業動物学 野生動物学 卒業論文
専	教授	小黒(岡野) 美枝子 (69) <令和3年4月> 理学博士
		生命科学概論※ バイオテクノロジー 動物人間関係学概論※ サイエンスイングリッシュ 卒業論文
専	教授	奥野 卓司 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学概論※ 動物文化人類学 卒業論文
専	教授	島森 尚子 (64) <令和3年4月> 修士(文学)※
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 動物人間関係学概論※ 動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ コンパニオンバード特性論※ 卒業論文 動物実習短期留学
専	教授	高橋 克樹 (66) <令和3年4月> 修士(人間科学)
		生命倫理学 哲学 卒業論文
専	教授	若林 義啓 (50) <令和3年4月> 博士(工学)
		情報リテラシー(基礎) 情報リテラシー(応用) 情報危機管理論 卒業論文 研修・ボランティア活動

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	山崎 薫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		アニマルアシステッドセラピー論※ イヌ・ネコの特性論※
専	教授	小黒(岡野) 美枝子 (69) <令和3年4月> 理学博士
		生命科学概論※ バイオテクノロジー 動物人間関係学概論※ サイエンスイングリッシュ 卒業論文
専	教授	奥野 卓司 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物人間関係学概論※ 動物文化人類学 卒業論文
専	教授	島森 尚子 (64) <令和3年4月> 修士(文学)※
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 動物人間関係学概論※ 動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ コンパニオンバード特性論※ 卒業論文 動物実習短期留学
専	教授	高橋 克樹 (66) <令和3年4月> 修士(人間科学)
		生命倫理学 哲学 卒業論文
専	教授	若林 義啓 (50) <令和3年4月> 博士(工学)
		情報リテラシー(基礎) 情報リテラシー(応用) 情報危機管理論 卒業論文 研修・ボランティア活動

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石川(筒井) 牧子 (45) <令和3年4月> 博士(理学)
		基礎化学 環境化学 生命科学概論※ 卒業論文
専	教授	新島 典子 (53) <令和3年4月> 修士(社会学)※
		ペットロス論 アカデミックスキルズ 卒業論文 アッセンブリーアワー I
専	教授	植田 富貴子 (66) <令和3年4月> 農学博士
		基礎生化学※ 公衆衛生学 統計学 卒業論文 アッセンブリーアワー I
専	准教授	加藤 理絵 (48) <令和3年4月> 博士(教育学)
		心理学 臨床心理学 コミュニケーション論 卒業論文 研修・ボランティア活動
専	講師	秋山 順子 (44) <令和3年4月> 博士(学術)
		アニマルアシステッドセラピー論※ アニマルアシステッドセラピー実習 アシスタンスドッグ論※ ジェロントロジーとドッグウォーキング 卒業論文 アッセンブリーアワー II
専	講師	堀井 隆行 (41) <令和3年4月> 修士(動物応用科学)
		アニマルアシステッドセラピー実習 動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ 伴侶動物行動演習 コンパニオンドッグトレーニング論 卒業論文 インターンシップ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石川(筒井) 牧子 (45) <令和3年4月> 博士(理学)
		基礎化学 環境化学 生命科学概論※ 動物遺伝学 卒業論文
専	教授	新島 典子 (53) <令和3年4月> 修士(社会学)※
		ペットロス論 アカデミックスキルズ 卒業論文 アッセンブリーアワー I
専	教授 (学科長)	植田 富貴子 (66) <令和3年4月> 農学博士
		基礎生化学※ 動物人間関係学概論※ 公衆衛生学 統計学 卒業論文 アッセンブリーアワー I
専	准教授	加藤 理絵 (48) <令和3年4月> 博士(教育学)
		心理学 臨床心理学 コミュニケーション論 卒業論文 研修・ボランティア活動
専	講師	秋山 順子 (44) <令和3年4月> 博士(学術)
		アニマルアシステッドセラピー論※ アニマルアシステッドセラピー実習 アシスタンスドッグ論※ ジェロントロジーとドッグウォーキング 卒業論文 アッセンブリーアワー II
専	講師	堀井 隆行 (41) <令和3年4月> 修士(動物応用科学)
		アニマルアシステッドセラピー実習 動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ 伴侶動物行動演習 コンパニオンドッグトレーニング論 卒業論文 インターンシップ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授 (学部長)	内田 明彦 (74) <令和3年4月> 獣医学博士
		寄生虫学
兼任	教授	梅村 隆志 (64) <令和3年4月> 獣医学博士
		基礎生化学※ 動物病理学 実験動物学※
兼任	教授	今村 伸一郎 (61) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学概論※ 動物機能形態学 動物生理学 動物形態機能学実習 実験動物学※ 動物看護学総合演習
兼任	教授	岡崎 登志夫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※
兼任	教授	富田 幸子 (68) <令和3年4月> 医学博士
		動物看護学概論※ 動物薬理学※ 動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※
兼任	教授	谷口 明子 (62) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学概論※ 動物臨床看護学(内科)※
兼任	教授	関谷 順一 (65) <令和3年4月> 獣医学士
		動物繁殖学※ ヒトと動物の共通感染症 動物愛護・福祉と関連法規※ アセンブリーアワーII
兼任	准教授	大橋 由紀子 (46) <令和3年4月> 博士(文学)
		英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV
兼任	准教授	茂木 千恵 (44) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		基礎生物学 生命科学概論※ 動物生態学 動物行動学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授 (学部長)	内田 明彦 (74) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物看護学概論※ ヒトと動物の共通感染症 寄生虫学
兼任	教授	梅村 隆志 (64) <令和3年4月> 獣医学博士
		基礎生化学※ 動物看護学概論※ 動物病理学 実験動物学※ アセンブリーアワーII
兼任	教授	今村 伸一郎 (61) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物看護学概論※ 動物機能形態学 動物生理学 動物形態機能学実習 実験動物学※ 動物看護学総合演習
兼任	教授	岡崎 登志夫 (70) <令和3年4月> 博士(学術)
		動物看護学概論※ 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※
兼任	教授	富田 幸子 (68) <令和3年4月> 医学博士
		動物薬理学※ 動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習
兼任	教授	谷口 明子 (62) <令和3年4月> 獣医学博士
		動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※
兼任	准教授	大橋 由紀子 (46) <令和3年4月> 博士(文学)
		英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV
兼任	准教授	茂木 千恵 (44) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		基礎生物学 生命科学概論※ 動物生態学 動物行動学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 友子 (48) ＜令和3年4月＞ 学士(獣医学)
		動物臨床看護学(基礎)
兼任	講師	福山 貴昭 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(危機管理学)
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 イヌ・ネコの特性論※ 動物災害・危機管理※
兼任	講師	宮井 紗弥香 (36) ＜令和3年4月＞ 修士(医科学)
		動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 研修・ボランティア活動
兼任	助教	荒川 真希 (35) ＜令和3年4月＞ 修士(獣医保健看護学)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床検査学実習※
兼任	助教	秋山 蘭 (30) ＜令和3年4月＞ 修士(獣医保健看護学)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床看護学(外科)実習※ インターンシップ
兼任	講師	霍野 晋吉 (55) ＜令和5年9月＞ 博士(獣医学)
		エキゾチックアニマル特性論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 友子 (48) ＜令和3年4月＞ 学士(獣医学)
		動物臨床看護学(基礎)
兼任	講師	福山 貴昭 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(危機管理学)
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 イヌ・ネコの特性論※ 動物災害・危機管理※
兼任	講師	宮井 紗弥香 (36) ＜令和3年4月＞ 修士(医科学)
		動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 研修・ボランティア活動
兼任	助教	荒川 真希 (35) ＜令和3年4月＞ 修士(獣医保健看護学)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床検査学実習※ 小動物栄養学※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※
兼任	助教	秋山 蘭 (30) ＜令和3年4月＞ 修士(獣医保健看護学)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(外科)実習※ インターンシップ
兼任	教授	霍野 晋吉 (55) ＜令和3年4月＞ 博士(獣医学)
		エキゾチックアニマル特性論
兼任	教授	櫻井 富士朗 (70) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		動物看護学概論※ 動物臨床看護学(内科)※
兼任	講師	三井 香奈 (34) ＜令和3年4月＞ 博士(先端科学技術)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)実習※ インターンシップ
兼任	助教	友野 悠 (29) ＜令和3年4月＞ 修士(動物応用科学)
		動物臨床看護学(基礎)実習 動物臨床看護学(内科)実習※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	<p>渋谷 寛 (61) <令和3年4月> 法学士</p> <p>生活と法律</p>
兼任	講師	<p>矢島 隆志 (76) <令和3年4月> 工学修士</p> <p>生活と経済</p>
兼任	講師	<p>長能 美香 (55) <令和4年4月> 修士(美術)</p> <p>美術史</p>
兼任	講師	<p>仁科 邦男 (73) <令和3年9月> 政治経済学士</p> <p>動物とジャーナリズム</p>
兼任	講師	<p>原島 恒雄 (67) <令和4年9月> 水産学士</p> <p>キャリアマネジメント</p>
兼任	講師	<p>荒木 幸子 (51) <令和3年4月> 学士(商学) /Associate in Applied Science (米国)</p> <p>キャリアマネジメント 小動物栄養学※ 動物実習短期留学</p>
兼任	講師	<p>加藤 剛 (46) <令和3年4月> 文学修士/The Degree of Master of Science in Education Curriculum, Instruction and Technology in Education (米国)</p> <p>英語 I 英語 II</p>
兼任	講師	<p>林 孝憲 (57) <令和4年4月> 修士(文学)</p> <p>英語 III 英語 IV</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	<p>土屋 恵美 (39) <令和3年4月> 専門学校卒</p> <p>コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習</p>
兼任	助教	<p>武田 侑子 (36) <令和3年4月> 専門学校卒</p> <p>コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習</p>
兼任	講師	<p>渋谷 寛 (61) <令和3年4月> 法学士</p> <p>生活と法律</p>
兼任	講師	<p>矢島 隆志 (76) <令和3年4月> 工学修士</p> <p>生活と経済</p>
兼任	講師	<p>長能 美香 (55) <令和4年4月> 修士(美術)</p> <p>美術史</p>
兼任	講師	<p>仁科 邦男 (73) <令和3年9月> 政治経済学士</p> <p>動物とジャーナリズム</p>
兼任	講師	<p>加藤 剛 (46) <令和3年4月> 文学修士/The Degree of Master of Science in Education Curriculum, Instruction and Technology in Education (米国)</p> <p>英語 II 動物実習短期留学</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	阿部 敬子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	白川 理恵 (53) ＜令和3年9月＞ 博士(文学)
		フランス語入門
兼任	講師	中山 多美 (58) ＜令和4年4月＞ 体育学士
		健康とスポーツ(実技含む)
兼任	講師	長島 孝行 (67) ＜令和5年9月＞ 農学博士
		動物繁殖学※
兼任	講師	鎌田 壽彦 (78) ＜令和5年9月＞ 農学博士
		動物繁殖学※
兼任	講師	尾崎 明恵 (67) ＜令和4年4月＞ 獣医学士、国際関係学修士
		動物薬理学※ 動物臨床看護学(外科)実習※
兼任	講師	藤井 聖久 (49) ＜令和4年9月＞ 博士(学術)
		動物臨床看護学(内科)実習※
兼任	講師	本田 三緒子 (67) ＜令和5年4月＞ 修士(危機管理学)
		動物臨床看護学(外科)※ 医療安全
兼任	講師	高柳 信子 (48) ＜令和5年4月＞ 学士(獣医学)
		動物臨床看護学(外科)※
兼任	講師	浴本 涼子 (48) ＜令和5年4月＞ 学士(獣医学)
		動物臨床看護学(外科)実習※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	阿部 敬子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	白川 理恵 (53) ＜令和3年9月＞ 博士(文学)
		フランス語入門
兼任	講師	中山 多美 (58) ＜令和4年4月＞ 体育学士
		健康とスポーツ(実技含む)
兼任	講師	長島 孝行 (67) ＜令和5年9月＞ 農学博士
		動物繁殖学※
兼任	講師	鎌田 壽彦 (78) ＜令和5年4月＞ 農学博士
		産業動物学
兼任	講師	尾崎 明恵 (67) ＜令和4年4月＞ 獣医学士、国際関係学修士
		動物臨床看護学(外科)実習※
兼任	講師	藤井 聖久 (49) ＜令和4年9月＞ 博士(学術)
		動物臨床看護学(内科)実習※
兼任	講師	本田 三緒子 (67) ＜令和6年9月＞ 修士(危機管理学)
		医療安全
兼任	講師	浴本 涼子 (48) ＜令和5年4月＞ 学士(獣医学)
		動物臨床看護学(外科)実習※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大島 誠之助 (77) <令和4年4月> 獣医学博士
		小動物栄養学※
兼任	講師	安藤 孝敏 (62) <令和4年9月> 文学修士
		ヒトと動物の関係学
兼任	講師	山川 伊津子 (63) <令和5年4月> 博士(学術)
		社会福祉 アニマルアシステッドセラピー実習
兼任	講師	山崎 恵子 (69) <令和5年4月> 学士(教養)
		アニマルアシステッドセラピー論※
兼任	講師	高柳 友子 (56) <令和5年4月> 医学博士
		アシスタンスドッグ論※
兼任	講師	田向 健一 (47) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※
兼任	講師	吉田 俊一 (63) <令和3年4月> 商学士
		動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ 水族動物学
兼任	講師	細野 茂之 (52) <令和3年4月> 学士(獣医学)
		動物飼育管理実習※
兼任	講師	早田 由貴子 (71) <令和3年4月> 獣医学士
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ イヌ・ネコの特性論※
兼任	講師	宮田 淳嗣 (36) <令和4年4月> 修士(獣医保健看護学)
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習
兼任	講師	山本 央子 (64) <令和5年9月> 専門学校卒
		コンパニオンドッグトレーニング論 コンパニオンドッグトレーニング実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大島 誠之助 (77) <令和4年4月> 獣医学博士
		小動物栄養学※
兼任	講師	安藤 孝敏 (62) <令和4年9月> 文学修士
		ヒトと動物の関係学
兼任	講師	山川 伊津子 (63) <令和5年4月> 博士(学術)
		社会福祉 アニマルアシステッドセラピー実習
兼任	講師	山崎 恵子 (69) <令和5年4月> 学士(教養)
		アニマルアシステッドセラピー論※
兼任	講師	高柳 友子 (56) <令和5年4月> 医学博士
		アシスタンスドッグ論※
兼任	講師	田向 健一 (47) <令和3年4月> 博士(獣医学)
		動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※
兼任	講師	吉田 俊一 (63) <令和3年4月> 商学士
		動物飼育管理論※ 動物飼育管理実習※ 水族動物学
兼任	講師	細野 茂之 (52) <令和4年4月> 学士(獣医学)
		動物飼育管理実習※
兼任	講師	早田 由貴子 (73) <令和5年4月> 獣医学士
		イヌ・ネコの特性論※
兼任	講師	宮田 淳嗣 (36) <令和4年4月> 修士(獣医保健看護学)
		コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習
兼任	講師	山本 央子 (64) <令和5年9月> 専門学校卒
		コンパニオンドッグトレーニング論 コンパニオンドッグトレーニング実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小嶋 篤史 (49) <令和5年4月> 獣医学士
		コンパニオンバード特性論※
兼任	講師	会田 保彦 (77) <令和3年4月> 法学士
		動物愛護・福祉と関連法規※
兼任	講師	小島 香代子 (49) <令和6年9月> 修士(農学)
		動物災害・危機管理※
兼任	講師	越村 義雄 (76) <令和6年4月> 商学士
		ペット関連産業論
兼任	講師	宮下 めぐみ (51) <令和6年9月> 学士(獣医学)
		ペットビジネス起業論
兼任	講師	佐藤 尚子 (66) <令和6年9月> 文学修士
		消費者行動分析学
兼任	講師	斉藤 康介 (69) <令和3年4月> 短期大学士
		動物とアート
兼任	講師	小宮 輝之 (75) <令和5年4月> 農学士
		動物園・水族館論
兼任	講師	谷川 力 (66) <令和5年9月> 農学博士
		有害動物学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	小嶋 篤史 (49) <令和5年4月> 獣医学士
		コンパニオンバード特性論※
兼任	講師	小嶋 香代子 (49) <令和3年4月> 修士(農学)
		動物愛護・福祉と関連法規 動物災害・危機管理※
兼任	講師	越村 義雄 (76) <令和6年4月> 商学士
		ペット関連産業論
兼任	講師	宮下 めぐみ (51) <令和6年9月> 学士(獣医学)
		ペットビジネス起業論
兼任	講師	佐藤 尚子 (66) <令和6年9月> 文学修士
		消費者行動分析学
兼任	講師	斉藤 康介 (69) <令和3年4月> 短期大学士
		動物とアート
兼任	講師	小宮 輝之 (74) <令和4年9月> 農学士
		野生動物学 動物園・水族館論
兼任	講師	谷川 力 (66) <令和5年9月> 農学博士
		有害動物学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	講師	中村 晶 (54) ＜令和4年4月＞ 学士(教養)
					キャリアマネジメント
			兼任	講師	斎藤 寿葉 (38) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)※
					/Master of Arts in American Studies
					英語 I
			兼任	講師	植月 憲一郎 (65) ＜令和4年4月＞ 文学修士※
					英語Ⅲ 英語Ⅳ
			兼任	講師	加田 日出美 (66) ＜令和5年9月＞ 獣医学修士/医学博士
					動物繁殖学※
			兼任	講師	藤村 馨男 (63) ＜令和4年4月＞ 獣医学博士
					動物薬理学※
			兼任	講師	近藤 昌弘 (59) ＜令和4年4月＞ 博士(獣医学)
					動物薬理学※
			兼任	講師	武藤 真 (72) ＜令和5年4月＞ 獣医学博士
					動物臨床看護学(外科)※
			兼任	講師	宮田 拓馬 (38) ＜令和5年4月＞ 博士(獣医学)
					動物臨床看護学(外科)※
			兼任	講師	野村 こう (60) ＜令和5年4月＞ 農学博士
					伴侶動物資源・育種学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ①古川力教授(学科長) 就任辞退のため、担当科目を以下のとおり変更。
 - i 「動物人間関係学」: 植田富貴子教授(学科長就任)
 - ii 「動物遺伝学」: 石川(筒井) 牧子教授
 - iii 「伴侶動物資源・育種学」: 野村こう兼任講師(令和5年4月就任予定)
 - iv 「産業動物学」: 鎌田壽彦兼任講師
 - v 「野生動物学」: 小宮輝之兼任講師(令和4年9月就任予定に変更)
- ②石川(筒井) 牧子教授に「動物遺伝学」追加(古川力教授就任辞退による)
- ③植田富貴子教授に「動物人間関係学概論」追加(古川力教授就任辞退による)
- ④内田明彦兼任(教授): 以下のとおり担当科目変更
 - i 「動物看護学概論」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
 - ii 「ヒトと動物の共通感染症」追加(関谷順一兼任(教授) 就任辞退による)
- ⑤梅村隆志兼任(教授): 以下のとおり担当科目変更
 - i 「動物看護学概論」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
 - ii 「アッセンプリーアワーII」追加(関谷順一兼任(教授) 就任辞退による)
- ⑥岡崎登志夫兼任(教授)に「動物看護学概論」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
- ⑦富田幸子兼任(教授): 以下のとおり担当科目変更
 - i 「動物看護学概論」削除(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
 - ii 「動物臨床看護学(基礎)」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
 - iii 「動物臨床看護学(内科)実習」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
- ⑧谷口明子兼任(教授): 以下のとおり担当科目変更
 - i 「動物看護学概論」削除(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
 - ii 「動物臨床看護学(内科)実習」追加(動物看護学部全体の体系的な教育見直しによる)
- ⑨関谷順一兼任(教授) 就任辞退のため、担当科目を以下のとおり変更。
 - i 「動物繁殖学」: 加田日出美兼任講師(令和5年9月就任予定)
 - ii 「ヒトと動物の共通感染症」: 内田明彦兼任(教授)
 - iii 「動物愛護・福祉と関連法規」: 小島香代子兼任講師(令和3年4月就任)
 - iv 「アッセンプリーアワーII」: 梅村隆志兼任(教授)
- ⑩教育の質向上のため、以下の科目担当教員として、令和3年4月櫻井富士朗兼任(教授) 就任
 - i 「動物看護学概論」
 - ii 「動物臨床看護学(内科)」
- ⑪霍野晋吉兼任(講師)から兼任(教授)へ変更し、令和3年4月就任
- ⑫教育の質向上のため、以下の科目担当教員として、令和3年4月三井香奈兼任(講師) 就任
 - i 「動物臨床看護学(基礎)実習」
 - ii 「動物臨床看護学(内科)実習」
 - iii 「インターンシップ」
- ⑬荒川真希兼任(講師): 以下のとおり担当科目変更
 - i 「小動物栄養学」追加: 荒木幸子兼任(講師) 就任辞退のため
 - ii 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論」追加: 早田由貴子兼任講師の就任辞退のため
 - iii 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習」追加: 早田由貴子兼任講師の就任辞退のため
- ⑭動物看護学部全体の体系的な教育見直しにより、秋山蘭兼任(助教)から「動物臨床看護学(内科)実習」削除
- ⑮教育の質向上のため、以下の科目担当教員として、令和3年4月友野悠兼任(助教) 就任
 - i 「動物臨床看護学(基礎)実習」
 - ii 「動物臨床看護学(内科)実習」
- ⑯教育の質向上のため、以下の科目担当教員として、令和3年4月土屋惠美兼任(助教) 就任
 - i 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習」
 - ii 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習」
- ⑰教育の質向上のため、以下の科目担当教員として、令和3年4月武田侑子兼任(助教) 就任
 - i 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習」
 - ii 「コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習」
- ⑱原島恒雄兼任講師就任辞退のため、「キャリアマネジメント」を中村晶兼任講師(令和4年4月就任予定)に変更
- ⑲荒木幸子兼任講師就任辞退のため、担当科目を以下のとおり変更。
 - i 「キャリアマネジメント」: 中村晶兼任講師(令和4年4月就任予定)
 - ii 「小動物栄養学」: 荒川真希兼任(助教)
 - iii 「動物実習短期留学」: 加藤剛兼任講師
- ⑳加藤剛兼任講師: 以下のとおり担当科目を変更
 - i 「英語I」削除: 齋藤寿業兼任講師(令和3年4月就任)
 - ii 「動物実習短期留学」追加: 荒木幸子兼任講師就任辞退のため
- ㉑林孝憲兼任講師就任辞退のため、「英語III」「英語IV」を植月恵一郎兼任講師(令和4年4月就任予定)に変更
- ㉒鎌田壽彦兼任講師: 以下のとおり担当科目を変更
 - i 「動物繁殖学」削除: 加田日出美兼任講師(令和5年9月就任予定)に変更
 - ii 「産業動物学」追加: 古川力教授就任辞退による
- ㉓尾崎明恵兼任講師の「動物薬理学」就任辞退により、藤村響男兼任講師(令和4年4月就任予定)及び近藤昌弘兼任講師(令和4年4月就任予定)に変更し、令和5年4月に就任予定。
- ㉔本田三緒子兼任講師: 以下のとおり担当科目を変更し、令和6年9月就任予定。
 - i 「動物臨床看護学(外科)」削除: 武藤真兼任講師(令和5年4月就任予定)、宮田拓馬兼任講師(令和5年4月就任予定)に変更
- ㉕高柳信子兼任講師の就任辞退のため、「動物臨床看護学(外科)」を武藤真兼任講師(令和5年4月就任予定)、宮田拓馬兼任講師(令和5年4月就任予定)に変更
- ㉖細野茂之兼任講師: 「動物飼育管理実習」の開講年次変更のため、令和4年4月就任予定に変更
- ㉗早田由貴子兼任講師: 以下のとおり担当科目を変更し、令和5年4月就任予定。
 - i コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論削除: 荒川真希兼任(助教)に変更
 - ii コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習削除: 荒川真希兼任(助教)、土屋惠美兼任(助教)、武田侑子兼任(助教)に変更
- ㉘会田保彦兼任講師就任辞退のため、「動物愛護・福祉と関連法規」を小島香代子兼任講師(令和3年4月就任)に変更。
- ㉙小島香代子兼任講師に「動物愛護・福祉と関連法規」追加(会田保彦兼任講師就任辞退のため)及び令和3年4月就任に変更
- ㉚小宮輝之兼任講師に「野生動物学」追加(古川力教授就任辞退のため)及び令和4年9月就任に変更

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A/C教員審査)を受けてください。**A/C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(A/C)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
10	1	2	0	13	3	9	1	2	0	12	3
(10)	(1)	(2)	(0)	(13)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
9	1	2	0	12	3	10	1	2	0	13	3
[△1]	[0]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70 歳	2 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{13} = \boxed{92.3} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{12} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授 (学部長)	古川 力	R3.3	必修	動物人間関係学概論	①	R3.3.31付け 自己都合による就任辞任(3)			
				必修	動物遺伝学	①				
				選択	伴侶動物資源・育種学	②				
				必修	産業動物学	②				
				必修	野生動物学	②				
				選択	卒業論文	①				
合計(D)			後任補充状況の集計(E)							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
1	人	必修	4	科目	必修	2	科目	必修	2	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	3	科目	計	3	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計(F)			後任補充状況の集計(G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
1	人	必修	4	科目	必修	2	科目	必修	2	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	3	科目	計	3	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{13} = 7.69\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

— 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和3年4月に動物人間関係学科長に就任予定の古川力教授が自己都合により退職をしたため、植田富貴子教授を新学科長とした。また、古川力教授の担当予定科目については、科目担当教員が不在とならないよう後任として、本学専任教員もしくは兼任教員を配置した。

学生には、4月当初のオリエンテーションにて、新学科長に植田富貴子教授が就任したことを報告し、併せて、シラバスを用いて、古川力教授が担当する予定の科目担当教員が変更になったことについて説明を行った。

専任教員については、設置時の計画では、初年度から完成年度時まで教授10名を配置計画していたため、令和4年4月までに教授を1名追加し、教授を10名とする計画で現在採用を進めている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和2年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、学部教育に支障をきたさないよう、教授会で協議の上、完成年度以降に向けて適正な人事計画をたて実行する。 (令和3(2021)年度)	定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、学部教育に支障をきたさないよう、教授会で協議の上、若手教員の採用も踏まえ、段階的に後任として適切な人員を補充する。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<動物看護学部 動物人間関係学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①令和3年度面接（対面）授業とオンライン授業の併用	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、次のような対応を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目は、面接（対面）授業とオンライン授業を併用した授業 ・演習・実習科目は、面接（対面）授業を基本とするが、「まん延防止等重点措置」「緊急事態宣言」時には、面接（対面）授業とオンライン授業を併用した授業 <p>ただし、体調不良等を含めて、大学に通学できない学生に、別途アフターケアも行い、併せて、クラスアドバイザー（クラス担任）制度を利用し、学生の悩みや不安を解消するように努めている。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

本学では、教員の質的向上の推進及び教育方法の改善等を見直し、本学の教育・研究の充実を一層図るため、FD委員会を設置している。以下のとおり、「ヤマザキ動物看護大学FD委員会規程」（平成22年4月1日制定）をもとに、説明する。

① 実施体制

a 委員会の設置状況

(趣旨)

第1条 ヤマザキ動物看護大学学則第4条の規定に基づき、ヤマザキ動物看護大学(以下「本学」という。)教員は、動物愛護の精神と豊かな人間性を基盤として、広い知識と専門の学芸を深く教育・研究することを任務とし、質的向上の推進及び教育方法の改善等を見直し、本学の教育・研究の充実を一層図るため、FD(Faculty Development)委員会(以下「委員会」という。)規程を定める。

(構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって、構成する。

(1) 学部長

(2) 専任教員の中から学長が指名する者

(任期)

第4条 委員の任期は、役職者はその在職期間とする。その他の委員は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学部長とする。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員会に、委員長が指名する副委員長を置く。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度におけるFD委員会は5月以降に第1回目を開催予定である。その後、定期的を実施する。

c 委員会の審議事項等

(審議事項)

第2条 委員会は、前条の目的に資するため、次の事項を審議する。

(1) 教員の質的向上の推進について

(2) 教員の授業改善、見直しについて

(3) 教員の教育技術の向上について

(4) 学生による授業評価等について

(5) 教員の学会等を始め、学内外諸団体等の研修の参加等について

(6) 教員の研究支援について

(7) 自己点検・評価活動とその活用について

(8) その他、学長の諮問について

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 教育研究に関わる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 授業評価
- ・ FD関連の情報収集と周知
- ・ 教員の研究会、研修会の派遣

b 実施方法

① 教育研究に関わる研修

担当授業を開始する前に、各教職員が大学の教育上の目的や養成する人材像について共通の認識を持つことができるようにするため、委員長は教職員に対して研修の機会を設ける。

② 授業科目の教育目標の周知・徹底

各授業科目の教育目標や位置付け、他の授業科目との関連（授業内容及び授業範囲）について十分に討議・連携を踏まえ、各教員が担当する授業の内容・方法等を決定する。

③ カリキュラムの改善

教育内容の向上を図るために、継続的にカリキュラムの改善を行う。すなわち、体系的に学修できる必修科目の検討等、カリキュラムの改善を図る。その際には、学生による授業評価と教員による自己評価、動物看護をめぐる国内外の教育研究の動向を考慮したカリキュラムの改善を目指す。

また、自己点検・評価委員会を設置して評価基準項目に従い、カリキュラムの評価を行う。評価結果は「自己点検・評価報告書」としてまとめ、法令に従い公益財団法人日本高等教育評価機構の評価を受審する。

カリキュラムの改善に関する項目については、教務委員会を経て情報を共有し、改善に取り組む。また、評価結果は教授会に報告し、全学を挙げて教育・研究の改善に努める。なお、「自己点検・評価報告書」は公表する。

④ シラバスに関連する対応

シラバスの内容の充実・改善を図るために、教務委員会が検討した事項を教授会に付し、学長が決定した結果をFD委員会が検証して教授会に提案する。担当科目の内容、教育目標、成績評価基準、教科書や参考書の指定等のシラバスの記載項目並びに記載方法等を検討する。

⑤ 教員相互の授業参観

教員相互で授業の参観を実施し、各教員の授業内容及び方法の改善を図る。

⑥ 授業評価

学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、授業の改善資料とする。このアンケート結果は自己点検・評価の際にも活用する。

⑦ FD関連の情報収集と周知

他大学並びに諸団体におけるFD関連の成果・資料等の情報を収集し、これらを教員に周知する。

⑧ 教員の研究会、研修会への派遣

諸団体が開催する各種研究会、研修会等に積極的に教員を派遣する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

現時点では、まだ実施されていないが、積極的な教職員参加が図られるよう計画を策定中である。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

具体的には、実施されていないが、今後、授業評価アンケートを実施し、結果を教員にフィードバックすることにより、授業改善への取り組みに反映させる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期・後期の最終授業回に実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員には、授業評価アンケート結果をフィードバックすることで授業改善への取り組みに反映させる。

学生には、授業評価アンケート結果を図書館にて公開する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学学則第2条に基づき、その教育研究の水準の向上を図るために、自己点検・評価を行う。教育研究目標を明確にし、目標を達成するための教育研究等の活動を行うとともに、教育研究等の活動状況や目標達成状況を適確に把握し、それらの結果を十分に踏まえ、文部科学大臣の認証を受けた機関による認証評価を受け、教育研究等の活動の改善に努める。
自己点検・評価の結果については、報告書にまとめ公表する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年7月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページに公表予定（令和4年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和3年度に、大学において、令和2年度までの評価を評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）にて受審するが、履行状況報告書において示す「動物人間関係学科」は令和3年4月開設のため、その後の受審については、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。